

彼岸法要のご案内

期日 三月二十日(金・祝)
(春分の日)

時間 午後一時より

日程 おつとめ・法話・お斎
(お斎はお持ち帰りできます)

参加費 三、〇〇〇円
(夫婦でのお参りは五、〇〇〇円)

申込 三月十二日まで
(0185・52・4698 願勝寺)

墓参用の花・ローソク・線香は
用意いたしております。

○椅子席多数あります。
○墓地清掃 四月四日(土)
午前八時より

白道

(びやくどう)
第227号
発行 願勝寺
企画 編集委員会
編集



2025年9月23日 お彼岸お中日の夕日 はまなす画廊辺り

1年に2度 春秋お彼岸のお中日

その日に限り太陽は真東から昇り真西に沈む

《今号のことは》

顔容端正たぐいなし

精微妙軀非人天

虚無之身無極体

平等力を帰命せよ

「浄土に往生された方は、

顔形がすばらしく、身体も人間や天人も超越した形で、生まれ変わらせていただけける。

なぜなら、浄土とは、色・形がない、私達の想像を超えたすばらしい真理の世界であるからである。そんな浄土に平等に往生させてくださる阿弥陀如来の働きに、心をゆだねて、生きていきなさい。」私はこのようにこの和讃をいただいています。

ここで重要なことは、「平等である」ということです。

私達は日々、他人と自分を比べながら生きています。あいつよりマシやと侮り、あの人にはかなわないと嫉妬をす

る。一方で、自分はそのうちにはない、相手を敬つてい、という人もい、という人が、自分を中心にして、比べていることには変わりはないのです。

また、昨今インターネットの世界で、承認欲求というコトバをよく目にします。相手に「イイね」と承認してもらうことに躍起になり、行動がエスカレートしていつてトラブルに遭う、または起こすという事例が増えているそうです。誰かに比べてもらって、認めてもらうことでしか自己肯定感を得られないのです。自分は自分だという、自己認識に自信が持てないのです。

しかし、阿弥陀如来は、私達に、そんなあなたで良いのです、そのままのあなたでこちらに來なさい、と呼びかけてくれているのです。

どんな人でもすべて、その

まま浄土に受け入れて、往生させてくださる。人間には出れない、阿弥陀如来だけがなせる働きが「平等」なのです。

すばらしい顔形で生まれ変わらせてくれる、という和讃の本当の意味は、比べなくて良い、そのまま救うという阿弥陀如来の願いなのです。

そして平等に、そのままの私達を受け入れてくれる世界、教えに出遇えた時、初めて、他人にどのように思われているのかでしか、自分を捉えていなかったことに気づけるのです。

そのままの自分とはどういう存在なのかと問い続けることで本

当に意味を持つて人生を“生きて”往“けるのではないのでしょうか。

また、大切なことは、自我が支配するこのままの自分を良しとしないことです。「そのまま」と「このまま」は違うのです。(岡本 健一郎)

今号のことは出典『浄土和讃』

修正会

1 / 1

あけましておめでとうございませう。

今年も阿弥陀様・親鸞聖人の前で衣服を整え合掌恭敬して、皆様とご一緒にお勤めする正信偈で新たな年を迎えることができました。皆様ようこそ修正会にお参りくださいました。

この正信偈の冒頭は、「帰命無量寿如来 南無不可思議光」です。無量寿と不可思議です。無量寿とは、量ることのできない寿、量る必要のない寿です。不可思議とは、それを短くすると不思議です。



阿弥陀様へのお焼香から始まります

私たちは、全てのものを量って生きています。近頃はコスパ・タイパなどなおさらです。物事をお金で量り、また時間で量る。全て自分の都合で、自分の物差しで量っています。

そして、私たちはどうやら不可思議・不思議というものを受け入れられないようです。思議とは、自分で考え、思いを巡らし、自分の知恵・知識で物事を理解しようとすることです。

不思議なもの・不可思議なこととは、私たちの理解・思議の範疇を超えているにもかかわらず、そのことに私たちはなかなか領けない。私たちは、分からない・説明ができないなどということが大嫌いなのです。私達は、思いもかけずいただいたこの命までも量ります。短いのはダメ、長いのがいい。しかも、ただ長いだけでもダメ。病気持ちではダメ。ボケてもダメ。元気でないダメなのです。

私が生まれてきたということだけでも不思議なこと。全く私の範疇を超え、わけがわからない、まさしく不思議・不可思議としか言いようのないいただいた命に対してまでもこのありさまで。

だいたい釈尊の教えは縁起の法です。「因縁生起」。この世の全ての物事は因と縁とによって生起する。因と縁、果です。ものごとの全てが縁によって起る。ここに私が入る余地など全くありません。つまり、自分の思い通りにはならないという事です。

因と縁が結びつき、果、結果が生まれる。そして、その果にまた縁が複雑に絡



ご参詣の方へのお土産

お講のご案内

毎月二十八日は、宗祖親鸞聖人の御命日のお講が開かれます。多くの方々がお参りくださいますようお願いいたします。

時間は、午前十一時半より。正信偈・お文拝読・法話の後、お斎(昼食)の接待があります。

四月二十八日 畠町組
五月二十八日 後町組
六月二十八日 大町組
八月二十八日 富町組
九月二十八日 万町組
十一月二十八日 柳町組

なお、毎月十五日も同様にお講が開かれています。
(開催月 五・六・七・九・十・十一・十二月)



20名程でお勤めをいたしました

み合い、結びつき次の果となっていく。こうしてどんな変化しつづける。これを「諸行無常」と言います。この世の全てのもの(諸行)に常ということはなく、

刻々と変化しつづける(無常)。今この時も二度とない、今この時です。またと来ない、今この時です。丁寧に生きていかねばならぬと思わざるを得ません。ですから、全てのものにこれだというものがなく、色々なものが関係しあつて(因と縁)成り立っている。これを「諸法無我」と言います。

つまり、私たちが生きていくということにおいて、いかなるものも自分の思い通りにはならないということです。そして、このことに領けない限り、「こんなはずでは



住職新年の言葉

なかった、こんなはずではなかった」と思いながら生きていかねばならず、これら思い通りにならないこと全てが私にとって苦しみ「二切皆苦」なのです。

この三つ「諸行無常」「諸法無我」「二切皆苦」をお釈迦様の基本的な教え、『三法印』と言います。この「一切皆苦」の代わりに「涅槃寂静」を入れることもあります。

「涅槃寂静」とは、煩悩の火が完全に消えた状態、悟りの世界、悟りの境地は静かで安らかなものであるという意味です。

「諸行無常」「諸法無我」「二切皆苦」「涅槃寂静」の四つとも入れると『四法印』

と言います。お釈迦様の説く基本的な四つの真理です。しかし、いったい私たちに「涅槃寂静」なんてあるのでしょうか。

毎年のことではありますが、昨日、年末の大晦日、NHKでは「紅白歌合戦」が終わると「ゆく年くる年」が始まり、除夜の鐘を突くシーンが映し出されます。煩悩の数だけついて煩悩を消し去ろう、きれいな身体で新しい年を迎えようとするのです。

そして、時報が鳴り〇時、「あけましておめでとうございませう」の挨拶の後には、神仏に手を合わせ「煩悩のありつたけを叶えてください」とお願いをする映像に変わります。

燃え滾る煩悩の火は一瞬でも静まったのでしょうか。「涅槃寂静」なんてとんでもない。まさしく「諸行無常」「諸法無我」「二切皆苦」です。

一昨年二〇二四年一月一日、今年一年平穏であれと願ったその日の午後四時一〇分にはマグニチュード七・四、最大震度七の大地

震です。

冒頭、私たちは不可思議・不思議が受け入れられない。なかなか領けない。私たちは、分からない・説明ができないなどということが大嫌いなのだと言いましたが、それでもちゃんと年の初めには、寒い中横入りすることなく整列し、私たちの理解・思議の範疇を超えて



祖師(親鸞聖人)前のお荘厳

いるものに姿勢を正し手を打ち、あるいは首を垂れ静かに手を合わせ煩悩のありつたけを願うのです。

私たちは、一体何者なのでしょう。その私を映し出してくれるのが、お釈迦様の教え・親鸞聖人の教えです。

親鸞聖人は、私たちのこ

とを「凡夫」と言われました。「凡夫というは、無明煩惱われらがみにみちみちて、欲もおおく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむころをおく、ひまなくして臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえず」と言われました。

また善導大師は「経教(けいきよう・ききよう)は、これを喩うるに鏡のごとし」と言われました。仏様、お釈迦様の教え、お経はありのままの私の姿を映し出してくれる鏡のようなものであるという意味です。

どうぞお寺においていただいて、仏様の教え・親鸞聖人の教えを聞いていただきたいと思っています。

先程来、煩悩のありつたけを願うなどと失礼なことを申しましたが、「ゆく年くる年」の司会を務められました高井正智さんは、「今は分断の時代と言われますが、これまでと同じように自分だけでなく、見知らぬ誰かの平穏な日々を願えるそんな温かな世の中を未来に繋いでいきたいと感じます。」と番組を結ばれました。



心新たに新しい年を迎えます

修正会とは、私たちの生活態度を修正する。軌道修正し、今年一年をどう生きるのか。今日一日をどう生きるのかということを考える集いです。

皆様ひとりひとりにとりまして、かけがえのない人生を輝かせる、ときめきある一年でありますように。そして、この世界が早くやさしさに包まれ、世界中のどなた様にとっても、明るい一年になりますように。一日も早く戦争や紛争が終わり、「武器も軍隊もいらぬ」世の中になりますように。

お寒い中お参りありがとうございました。本年もよろしくお願いいたします。

報 恩 講 殿 修

令和7年
10/26



10/25 大連夜 御伝鈔拝読練り出しの練習



10/23 前日にお華束



10/19 仏具のお磨き奉仕



10/26 受付のお手伝い 越後金義さん



練り込み
燭持 佐藤幸樹さん・若狭
洋美さん 卓持 石戸谷剛
志さん・武田成史さん



若院の御伝鈔拝読



責任役員
ご挨拶 塚本真一さんから



ご法話の照井静志先生



司会進行と打ち合わせ 佐藤幸樹さん



私は起きていますが



ご参詣の皆様方



正信偈を唱和いたします



お斎の合間にビンゴゲーム



95歳になってもお出で下さるし、片付けも



お兄ちゃんグー





秋彼岸のお勤め

一面の写真はこの日、真西に沈む太陽。『仏説無量寿経』には、「現在西方去此十万億刹 其佛世界名曰安樂」と。『仏説阿彌陀經』には、「從是西方過十万億佛土 有世界名曰極樂」と。けれども『仏説觀無量寿経』には、「阿彌陀佛 去此不遠」とある。阿彌陀さんは浄土往生を

秋の彼岸法要

九月二十三日、秋のお彼岸お中日。見事な天気の中、二十五名程でお勤め。そして法話。

お葬式の代行

首都圏の方へ

首都圏「仏事代行」専用ダイヤル

03-3996-3339

首都圏にお住まいの方でお身内の方が亡くなられた場合、願勝寺からは葬儀に向けない場合が多いかと存じます。そんな時のために、東本願寺では、願勝寺の名代として儀式を執行していただける首都圏「仏事代行」システムをとっています。

お電話の際には、「秋田県能代市の願勝寺の門徒の〇〇です」とおっしゃってください。もちろん、願勝寺(〇一八五―五二―四六九八)にご連絡いただければ、当方からお取次ぎいたします。僧侶までも葬儀社に任せてしまわれることだけはおやめください。

事務所 東本願寺 真宗会館
練馬区谷原1-3-7

願う者のお傍におられ、十万億の佛国土にはお留守？それとも、ぼうつと生きている私にとっては手の届かぬどころか、とても行き着けぬところにいらつしやる？。



お彼岸に因んだお話

財務委員研修会

十二月十七日、責任役員・総代会が開かれた。引き続き財務委員の方々が合



財務委員研修

流され、研修会となった。写真はとても研修会とは思えない。ご想像の通り、住職の話の後は懇親会。

本堂仏具のお磨き

ご奉仕お頼み
いたします

三月一日(日)
午後一時半

集会のご案内

聞法とは自分の人生を大切に生きるとのことです。教えを聞くことは、心が貧しくならないということ。私にとって、最も必要なことであり、最も急がなければならないことです。

○親親会

毎月第1金曜 午後7時
蓮如上人の「お文」を中心にした法話。

○婦人十日会

毎月10日 午後1時半
觀無量寿経を中心にした法話。

○十五日講

毎月15日 午前11時半
音楽によるおつとめ、法話、お齋。

○宗祖御命日

毎月28日 午前11時半
おつとめ、法話、お齋。
門徒であれば全員集合の日です。当番町によるお齋の接待があります。

○声明教室

随時

どの集まりも、残念ながら人数が多くありません。一人でも多くの参加聞法を願っております。参加の方へは毎月ハガキ通信おとずれ(短信願勝寺)でご案内致します。

総代に武田吉太郎氏



このたび二月十五日付で武田吉太郎氏（翁飴で知られる桔梗屋二〇代目店主市内畠町）が総代に選任された。昨年十二月十一日に先代の吉太郎さんが逝去されたことに伴い、その後任を息子さんがご承引くださいました。

先代吉太郎さんは、二〇〇二年から長きにわたり総代を務めてくださいました。大変ありがとうございました。

大掃除 12/28

年末の十二月二十八日、大掃除をしていただいた。今日ばかりはいつものご婦人方のみならず男性陣も加わり、脚立にのぼって高いところの埃を落としていただいた。感謝!!



任期は残任期間の二〇二八年五月三十一日まで。末永いご活躍を念じます。

初お講 親鸞聖人の命日

念仏相續・
仏法聴聞の日 1/28

一月二十八日「初お講」が勤まった。

親鸞聖人たちも、法然上人のご命日二十五日にお念仏の集いを催されています。ということとは、七五〇年も前からずっと続いているのです。

お勤めの後には法話、そしてお斎です。

皆さんもお参りされませんか。（三面にご案内してあります）

同朋講座 2/8

第三十五回同朋講座が厳寒の中催された。

お勤めの後、二〇〇二年に放送された「知ってるつもり」「人間ブツダ」を観る。そして、「寒天には御酒等の爛」をお伴に座談会。

ボイスカウト 報恩講 11/29

秋田第六団でもみんなで正信偈を唱えて報恩講をお勤めする。

始まるまで一人で正信偈の練習をするカブスカウトもいました。



上手によんでくれます

ユニセフ募金 一六、五五一円 能登半島地震災害救援金 四〇、〇三五円

世界中の人々がもう少しずつやさしくなればきつとこの世界はもつとよくなる。この世界がやさしさに包まれますように。

ありがとうございます。

書初め 1/11

年初めの集会では書初めをするのだが、このような書を見たのは初めてでした。



絵を描いちゃいました

お勤めの後にはお釈迦様の弟子 周利槃陀伽のDVDを観る。そしてお母さん方手作りのお斎で大バイキング大会。



焼香台に募金箱

編集後記

昨年来ツキノワグマが町中のあちこちに出没。スーパの中まで入り込んでびっくりです。昔は町中で熊と出会うなんて想像もできませんでした。同じ熊でもパンダだった。観光名所になったかも。

年が明けて新年早々、暴風雪・地吹雪・ホワイトアウト。冬の線状降水帯で、JPCZと言うそうです。お陰で毎日雪かきで体が悲鳴をあげています。

激動の二〇二六年が始まって早一か月ですが、どんな一年になるのでしょうか。そうこうしているうちに、お彼岸が近づいてきました。早く暖かくなって欲しいものです。（佐々木正夫 記）